

筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」主催

2020年度  
**筑波大学 オンラインによる  
第一回 新入生に贈る特別講演会**

グローバル時代の国境を越えて働く人材の育成  
～ポストコロナをたくましく生きていくために～

カリフォルニア大学 サンディエゴ校教授 當作 靖彦

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

2021年3月



# 2020年度「オンラインによる新入生に贈る講演会(第1回)」 冊子刊行に寄せて

白山 利信

筑波大学人文社会系教授・NipCA プロジェクト実務責任者  
グローバルコミュニケーション教育センター長

筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」は、2019年1月、文部科学省「大学の世界展開力強化事業(ロシア)」の本学の採択事業「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」(2014-2019)の成果とノウハウを引き継ぎ、新たなミッションを担ってスタートしました。初年度を成功裏に締めくくべく残された事業案件を進めていた2020年春、新型コロナウイルスのパンデミックという事態に突然見舞われ、2月下旬の時点で初年度予定していた研修事業や国際学会は中止せざるを得ず、次年度の計画のすべてが変更を余儀なくされました。新型コロナウイルスが収束しない中で始まった当プロジェクト2年目ですが、活動形態をオンラインに切り替え、派遣・受入事業を除けば、前年度以上のプロジェクト活動を推進することができました。NipCA プロジェクト主催の公開講演会「中央ユーラシアと日本の未来」シリーズもそうした事業のひとつで、Zoomによるオンライン開催に切り替えて行いました。

また、本年度は、コロナ禍のため大学に入構できずにいる新入生のため、「新入生に贈る特別講演会」を2回開催いたしました。この新たな試みは特に反響が大きく、本プロジェクトでは社会貢献の一環として、第1回オンラインによる新入生に贈る講演会「グローバル時代の国境を越えて働く人材の育成～ポストコロナをたくましく生きていくために～」を講演会記録冊子として刊行することにしました。講師を務められた當作靖彦先生はアメリカ・サンディエゴ市在住で、日本との時差が16時間あるため、現地時間では深夜となる中でのご講演でした。それにもかかわらず渾身のご講演をしていただいた當作先生に、改めて深くお礼と感謝を申し上げます。

本講演会で、當作先生はこれからの時代と世界を生きていくために、①新しい知識が想像を上回る速度で陳腐化するので大学卒業後も学び続けること、②自己管理能力・コミュニケーション能力・協働力・共感力を高めること、③リスクを恐れない主体的・自律的なチャレンジ精神が不透明な未来への対応力を磨き (futureproof)、複数分野で自らの才能を開花させ (Multipotentialite)、予期せぬポジティブな結果を生み出す (Serendipity) という前向きな生き方、働き方が大切であることを強調されました。特に、Serendipity は、ただ待っているだけでは訪れません。問題意識を持ってチャレンジし、経験を積み重ねる中で、「それ」(全く予期せぬ形で自分に訪れる独創的な閃き)を見逃さず察知することが非常に重要です。

當作先生の熱いエールの言葉に呼応するように、質疑応答では新入生からの質問が止まず、講演は予定時間を1時間も超過してしまいましたが、當作先生は学生の質問の一つひとつ最後まで熱心に答えてくださいました。そのため、講演時間は2時間15分にも及ぶ、前例のない講演会となりました。現地では深夜にもかかわらず、全く疲れたそぶりを見せない當作先生の姿は、参加した学生たち全員に大きな感銘を与えました。本冊子は講演会の全体をそのまま収録しておりますので、オンラインであることを忘れさせる「熱気」を是非とも感じ取っていただきたいと思います。

最後になりますが、日頃から筑波大学 NipCA プロジェクトを陰に陽に温かく支えて下さっている公益財団法人日本財団の森祐次常務理事、有川孝国際事業部長、ハフマン・ジェイムズ国際事業部課長、そして日本・中央アジア友好協会 (JACAF) のヴルボスキ京子会長に対して、衷心より厚く御礼を申し上げます。

**白山** それでは時刻になりましたので、筑波大学「オンラインによる新入生に贈る特別講演会」第1回を開催したいと思います。

まず、顔は見えませんが、令和2年4月に入学された筑波大学の新生、学生の皆さん、それから教職員の皆さん、それから一部、大学関係者ではございませんが、この講演会に関心を持ってご参加いただいた皆さま、ご多忙のところ、お時間を割いてくださりまして、誠にありがとうございます。

まず今日の講演会の趣旨を簡単に説明させていただきたいと思います。本日の司会は、筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター長の白山利信と申します。人文社会系の教授をしております。よろしくお願いたします。

本日の講演会の主催は、筑波大学「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」、そして共催はグローバル・コモンズ機構、グローバルコミュニケーション教育センター、SGU 事業推進室、協力は学生部、国際室となっております。

今回の講演会の趣旨ですが、とにかく1年生が非常に奮闘されていると。入学式もできませんでした。キャンパスに入ることもままならず、サークル活動もできませんし、特に体育会系で、スポーツを極めるといいますか、そういった部活動を一生懸命やろうと思っていた学生も十分にできず、スポーツもできないという状況を余儀なくされました。それから大学祭も中止になるという、とにかくコロナウイルスのために、本来、大学生らしい活動をしていたはずの学生さんたちが思うようにいかなかったということで、とにかく苦しみながらも奮闘を続けて、オンライン教育にいそしんでいる新生の学生のために、とにかく1年生のために、特別にこの講演会というものを企画しまして、今後のキャンパスライフへの活力と知的好奇心の向上につなげられるような、そのような機会を提供したいということで、今回、「新入生に贈る特別講演会」を企画いたしました。

実は秋口には1年生、新生のための企画として第2弾も考えておりますので、お楽しみにしていただければと思います。

それでは講師の紹介ということで、今日の特別講演会の講師の先生である當作靖彦先生について、簡単にご紹介させていただきます。今、當作先生はアメリカのサンディエゴからZoomを接続し、大変な時差のある中、この講演会を担当して下さっております。カリフォルニア大学サンディエゴ校教授で、同校の言語学部大学院

を修了された言語学博士でございます。そして、このサンディエゴ校の環太平洋・国際関係大学院外国語プログラムのディレクターをされております。ご専門は言語習得論、外国語教授法ということになっておりますが、グローバル人材育成に関しても非常に深い知見とさまざまな発信を、発言をされておられ、日本でも大変有名な先生でございます。それから、これまでアメリカの日本語・日本文学学会の会長、それからアメリカ日本語教育学会の会長もされておられ、現在、その学会の常任顧問もされております。

それから書籍、論文はもう数えきれません。紹介するのも難しいといいますが、當作先生から履歴書、CVを送っていただいたんですけど、70ページにも及ぶ大変な履歴書でございまして、とてもご紹介できるものではありませんが、日本でもご活躍なので、一つだけぜひご購入いただきたいという著書を紹介したいと思います。講談社から『NIPPON3.0の処方箋』というタイトルで外国語教育に関する提言をまとめられ、いろいろなこれまでのご研究や外国語教育に関する非常に中身の濃い本を出されております。それから、国際文化フォーラムというところから『外国語学習のめやす』という大変影響力の大きかった書物も出されております。

以上、當作先生の簡単なお紹介です。今日の講演内容ですけれども、「グローバル時代の国境を越えて働く人材の育成～ポストコロナをたくましく生きていくために～」ということです。

それから申し遅れましたが、本日は筑波大学の教職員の、特に職員のスタッフ研修を兼ねておりますので、併せて伝え申し上げます。アフターコロナを想定した話題がたくさん出てくるかと思っておりますけれども、学生たちの励みになる非常に刺激的なご講演になるものと思っております。

それでは當作先生、前置きが長くなりましたけれども、ご講演のほうをどうぞよろしくお願いいたします。

**當作** 白山先生、どうもありがとうございます。皆さん、今日はお忙しい中、オンラインでお集まりくださり、本当にありがとうございます。今、白山先生からお話がありましたように「グローバル時代の国境を越えて働く人材の育成」ということでお話したいと思っております。

私が今いるところはまだ7月19日です。皆さんのいらっしゃる日本はもう7月20日ということだと思っておりますけれども、皆さん、1年前、2019年7月20日は何をなさっていたか、思い出せますか。私ははっきり覚えております。19日に関西大学で講演をしまして、20日の

筑波大学 新入生に贈る特別講演会 第1回



當作靖彦 (カリフォルニア大学サンディエゴ校)

2020年7月8日(月) 午後4時15分～5時15分



July 2020						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

Monday, Jul 20th 2020

July 2019						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

Saturday, Jul 20th 2019

朝、新幹線で大阪を出て、東京経由で、東京から私の実家がある函館まで、初めて北海道新幹線を使って函館に向かったのが7月20日でした。その頃はアメリカから日本にも自由に行けましたし、自由に旅行ができたわけですが、今はアメリカから日本に渡るということは、日本は鎖国状態ですので、行くこともできません。

実は今年の7月10日に北海道で講演をして、その後、函館の実家に戻って、家族に会って、その後、タイのバ

ンコクに行って、18日と19日にバンコクで講演をして、そのまま東京に帰ってきて、本当は今日は新宿にいるはずなのです。新宿の東口と西口を結ぶ自由通路というのが昨日でできまして、私はそれを見るためにわざわざ1泊、新宿に泊まって、それでアメリカに帰る予定だったのですけれども、もう数カ月前に立てた予定も全く無駄というか、全然働かない。新型コロナがまん延しているために、にっちもさっちもいかない。今、そういうような状況になっているわけですね。

とにかく新型コロナのウイルスが出てきてから、アメリカでも家にいろ。私の大学もよほど毎日、実験で大学に出ないといけなとか、それから実験用の動物を飼っていて、動物にえさを与えないといけなという、そういう先生とか大学院生以外はキャンパスに入ってはいけないということになっていまして、ずっと家にいるわけですね。私のいるカリフォルニア州も外出禁止のようなものが、ロックダウンというのがしばらく続いていまして、今、少し緩くなったのですけれども、新型コロナがまた増加し始めて、それでまた規則が厳しくなりつつあるところですよ。

私にとって、やっぱり一番ショックだったというか、自分にとって非常にインパクトが大きかったのは、皆さんと同じで、授業がオンライン化したということで、オンライン授業になったということなんです。私は3月の上旬までは普通に対面授業をやっていて、そこで冬学期が終わりまして、4月の初めから春学期が始まったんですけれども、春学期からオンライン授業ということで、2週間の準備期間で普通の対面授業をオンラインでしなければならないという、そういうふうになったわけです。

オンライン授業だけだといいいんですけれども、学校から言われたのは「もしわれわれ教師が新型コロナに感染した場合には、自分のクラスを代わりに教えてくれる人

## オンライン授業



を必ず置いておくようにしなさい。教えてもらう内容もあらかじめ準備しておきなさい」ということだったんです。私の場合には、私の授業を代わりに教えてくれる先生というのがいないので、何としても学生を卒業させるためには単位を出さないといけないですから、オンライン授業で、病気にならないで授業をしなければならないという状況に追い込まれたんですね。

それで、私は一大決心をしまして、犬の散歩以外は絶対、家から外に出ない。私は、以前は自分の食べ物というのは、自分でスーパーマーケットに買いに行っていたんですけども、スーパーマーケットに行くことでコロナウイルスに感染する可能性というのもあるので、自分は絶対、スーパーマーケットとかドラッグストアとか、もうとにかく犬の散歩以外は外に出ないと決めて、私の家内にスーパーマーケットに行ってもらうことにしたのです。うちの家内も仕事がりモートワークでずっと家内にいるんです。こういうことを言っただけですけども、うちの家内の仕事は代替りの人がいるので、家内が感染しても、誰か他の人が仕事をしてくれるということで、うちの家内には悪いんですけども、家内にスーパーマーケットに行ってもらったんですね。うちの家内はベジタリアンで、私は肉食で、食べるものが全然違うんですね。それで、スーパーに行くのも別々ですし、それからクッキングというか、料理を作るのも全然別なんです。以前は、私が自分で料理したいものは自分でスーパーマーケットに行って、買っていたんですけども、とにかくコロナに感染したくないということで、うちの家内に行ってもらう。

そうすると、自分の欲しいものが手に入らないんです。例えばヨーグルトを買ってきてもらって、私は好きなブランドがあるのでですけども、うちの家内はそのブランドのことを知らないで、他のブランドのヨーグルトを



買ってくる。

それはいいんですけども、例えば私が「スーパーマーケットでもやしを買ってきてほしい」と言うと、うちの家内は「あのスーパーのどこにもやしがあるんだ」と言うので、僕が説明するけれども「行ったけれどもなかった」と言うんですね。「そんなはずはない」と言うんですけども「いや、なかった」と言い張る。そういうようなことがいろいろありまして、自分の使いたい食材というのが手に入らないということがあるんですね。

それで、私は新型コロナがまん延したことで自分にとって良かったことというのは、非常に自分がクリエイティブになったということなんです。どういうことかということ、例えば食材で自分の欲しかったものがない。それで、例えば私はピーマンが嫌いなんですけども、うちの家内がピーマンを買ってきて、私のもやしは買ってこないという場合に、我慢してピーマンを食べないといけないとなると、クリエイティブティーを使って、自分でも食べられるピーマンの料理を作ろうと頑張るんですね。私は気が付いたんですけども「何でも自由にしてもいいよ」というふうにすると創造力というのは出て

こないんですけれども、今のように入種な制限があつて条件が付けられると、人間というのは創造力が出てくるんじゃないかというふうに入種です。

それで、うちの家内がスーパーに行くわけですけれども、やっぱりうちの家内もスーパーで感染しては困るので、1週間に1回とかまとめ買入をするんです。ある食材を全部、使い切つて何とかしようということで、今までだったら、もう使わなかつたら捨てていたのに、ないものはすぐ買入に行ったのに、それができないので、とにかくある食材を見て、何が作れる、それから自分の体の抵抗力を強めるためにはどうい入ものを食べたらいいかということを入本当によく考入て、あらゆる面から多面的に考入る。これを360度思考とい入ますけれども、そういうようなことで、今まで以上によく考入るようになったとい入ことが入えます。

それから、限られた食材で何かを作らなくちゃならないとい入ことで、非常にフレキシブルとい入か、柔軟性が出てきました。それから限られた条件下で何とかしようとい入ことで、そういう困難なところに入うまく適応するとい入ことで、コロナウイルスがまん延したおかげで私は創造性が高まりましたし、柔軟性、それから適応性が高まったと思入うんですね。これは新型コロナが広まった、私にとっては良かった点じゃないかなと思入いますね。

うちの家内にはいろいろ文句を言つて「もやしはあるのに、なぜないのか」とか言つていたんですけれども、私はとにかく外に出たくない。その中をうちの家内に行つてもら入うとい入ことで、できるだけ文句は言わない。買つてきたもので我慢するとい入忍耐力もつてくるとい入ことで、コロナがまん延したおかげで私自身が変わつてきたとい入か、それは非常に良かったと思入うんですね。

コロナがまん延して、私は家にずっといるとい入ことで、友達にも会えませんし、学生にも直接会入うことができない。隔離状態とい入か、そういう状態が続いていたんですけれども、そういう中で非常に考入る時間が出てきて、内省するとい入か、自分のことを見返すとい入か、自分とい入うものがどうい入うものなのか、これから自分はどうしていつたらいいんだら入うとい入ことをよく考入るようになったと思入うんですね。

最近、棋聖になつた藤井棋士も4月、5月、将棋ができなかつたので、いろいろ考入えていたと言つていました。そのおかげで棋聖になつたのかもし入れませんけど、考入入るとい入ことは非常に大切で、自分の内面を見入るとい入か、自己認識をするとい入か、そういうことをする時間が

## 創造力



## 360度思考



## 柔軟性 適応性



非常にあつたとい入のはとても良かったと思入います。

それからもう一つ、やっぱり孤立して入て寂しいとい入ことで、今までの友人とか、それから学生をつながりとい入のがいかに大切なものかとい入ことに気が付いたんですね。人間とい入うのはこの世界ではたつた一つの社会的動物とい入ことで、社会性とい入うことを非常に大切にした、そういう動物なんですけれども、例えば今回、新型コロナが出てきたために、新型コロナに感染しない

けれども、外出禁止で家から外に出られない人が自殺するとか。あんまりニュースになっていないんですけど、アメリカでは家にいるために自殺したという人がかなり出たそうです。それからもう一つ、新型コロナに感染して重症になって、病室に閉じ込められて、感染するので、他の人と全然、家族にも会えないということで自殺したという人もかなりいるらしいんですね。そういう人たちは一応、コロナで死んだということになっているけども、

実は自殺したという人が多いということも私は聞いています。

そういうわけで、人間にとっていかに社会的、あるいは感情的なつながりというのが大切かということで、友達というのはいかに大切か。それから、私も家内と結婚して三十何年になりますけれども、家内の存在というのは今まで空気みたいだったんですけど、今回、やっぱりこういうことになると、家内というのは自分にとって重

## 忍耐力



## つながり

### 社会的 感情的



### 孤立・隔離・単離



## ソーシャルメディア



## 内省



## コミュニティ



要な存在だなというふうに気が付くようになりましたし、そういうつながりというのが非常に大切だなということが分かりました。

こうやって離れていると、電話で話すこともできますけれども、他人とつながるということでツイッターとか、日本の場合にはLINEとかフェイスブックとか、そういうソーシャルメディアというのが非常に大切だなということに今回、気が付きました。実は私はソーシャルメディアのほとんどのアカウントを持っていて、使っているんですけど、例えばツイッターとか、フェイスブックとか、LINEというのを自分で使っているんですけども、その発信する相手は自分だけなんです。自分の記録を残すためにLINEとかツイッターとかフェイスブックとか、いろんなものを使っているんですけども、今回、気が付いたのは、この新型コロナで直接、人に会えなくなって、重要な情報を得るとか、いろんな人と、重要な人とつながるためにソーシャルメディアを使わないといけないということに気が付いて、実は私は今度、別のアカウントを全部作って、一般の人と、他の人とつながるソーシャルメディアのアカウントも作りました。

気が付いたんですけど、そういうアカウントから来る情報というのが非常に自分にとって、自分の研究にとっても非常に重要な情報というのが入ってくるので、やはりこういう孤立した社会に生きていくためにはソーシャルメディアをうまく使いこなす。例えば炎上しないようにするとか、そういうようなソーシャルメディアをうまく使う技術というのがとても大切だなということが今回、分かりました。

やっぱりコミュニティーというものが非常に大切で、先ほども言いましたけど、人間というのは社会的動物で、ひきこもりとかいうのもありますけれども、実際はやっぱり人間というのは1人では生きていけない。何らかのコミュニティーに参加することによって生産性も上がるし、感情的にも落ち着いて、精神的な問題も出なくなるという、そういうコミュニティーというのが非常に大切だなということが今回、分かりました。

またオンライン教育に戻りますけれども、私も10週間、オンラインで教えて、うちの大学は秋の9月の終わりから始まる学期は対面授業に戻ると言っていたんです。ご存じの方もいらっしゃると思いますけれども、アメリカはまた感染者がどんどんどんどん増えていて、トランプが全く何ら政策を展開しないので、また増えてきているんですね。今の状況では、私はうちの大学も対面授業というのはまず無理で、オンライン教育を続けない

## オンライン教育



## 協働力



といけないなと思ったんですけども、私の学生というのは幸運なことに非常にオンライン学習をうまくできて。理由は後でお話ししますが、非常に私のオンラインの授業もうまくいきましたけど、それは学生のおかげじゃないかと思うんですね。

なぜかという、一つは学生がオンライン上でコラボレーションというか、一緒に仕事をするということが非常に上手だった。これから21世紀を生きていくためには、世界中の人とオンラインでいろいろな仕事を一緒にしていくということが大切で、今回も会社が閉じてしまって、リモートワークになって、リモートでみんな一緒に仕事をしている時代ですけども、やはりこの協働力というのは非常に大切だと思う。

それから、もう一つ、私の学生が非常にオンラインの授業で、対面授業よりもよく話すようになったんですけども、非常にいいコミュニケーション能力を持っていた。それもオンラインでうまく他の人と話せるという、そういう能力があったということで、私は学生には非常に感謝しているんですけども、このオンラインでの共同作業がうまくできた。それからオンラインでうまくコ

コミュニケーションができたということが、非常にオンライン教育がうまくいった理由ではないかというふうに思います。

それで、さらに考えてみたんですけども、私の教えている学生というのはこの共感力、他人の気持ちになりきるとか他人に思いやりの気持ちを持つという、それが非常に優れているということがいえると思うんですね。実はこの共感力を身に付けるというのは21世紀を人間が生きていくためにはとても大切なことで、今、いろいろな仕事がコンピューターとかロボットに、あるいはAIに取られていますけれども、AIとかコンピューター、ロボットが一番弱い力がこの共感力なんです。共感力を必要とする仕事というのは、AIとかロボットとか、そういうようなものに絶対取られることがない。だから、感情性豊かになる。これはEQといいますけれども、Emotional IQ、感情の知性とか日本語に訳されていますけれども、自分の感情を理解する。これはなかなか難しいことなんです。あるいは自分の感情をコントロールする能力とか、それから他人の感情を理解するとか、他人に同情とか思いやり、共感をするという、そういう

能力。

これは実はオンライン上でそういう能力を使うというのは非常に難しいんですね。皆さんは恐らくZoomで授業をやっている、顔がずらっと並んでいて、2Dだとなかなかそういう相手の気持ちが分からないとか、同じクラスの中で対面でやっているといわゆるケミストリー(化学反応)……。何か伝わってくるということで、相手の気持ちがよく分かるんですけども、オンラインで授業をやるそれがなかなか伝わってこないで、今後、オンラインで仕事をするとか授業をするということになったら、オンラインでも共感の能力を使う、スキルを使うという、そういうようなことがとても重要な時代になってくるんじゃないかと思います。

よくよく考えると、私が教えている学生というのはいわゆるジェネレーションZといわれる、恐らく今、この講義を聴いていらっしゃる方々もジェネレーションZの方、アメリカではGen Zとかいいます。その前のGen Yとかミレニアル、それからその前にはブーマーというのがいました。今の1995年か96年、これはアメリカとカナダでは開始年数が違うんですけども、か

## コミュニケーション能力



## GEN Z



## 共感



- 専門家、教師、親よりも  
同年代の友人の考えを信じる
- 注意持続時間が8秒
- 起業家精神に富む。透明性を求める。社会への貢献を常に考える



ら2010年までに生まれた人がジェネレーションZというんですね。ですから、今、この講義を聴いていらっしゃる方でもジェネレーションZという方が多いと思うんです。

私の学生はみんな、ジェネレーションZなんですけれども、このジェネレーションZの特徴は何かというと、専門家、教師、親よりも同年代の友人の考えを信じるということで、先生というのをあんまり信じないんですね。それから、注意持続時間が8秒ということで、アテンションパンが非常に短いんですよ。私は今回、気が付いたんですけれども、例えばビデオを見てもらうのでも、もう最初に面白いものが出てこないと絶対見てもらえない。それから、ビデオも長いものと絶対見てもらえない。まず5分以上になるとビデオを見てくれない。だから、オンラインで何か「ビデオを見てください」というときもせいぜい3分。これがジェネレーションZの特徴なんです。

それからもう一つ、起業家精神に富む。透明性を求める。社会への貢献を常に考えるということで、そういうなかなかいい学生がいて。

今回もコロナウイルスの問題が出てきたときに、私の学生でも1人いるんですけれども、社会のために何とか貢献しないとイケないということで、自分の持っている3Dプリンターを使って、医療従事者のためのフェースマスクというのを3Dプリンターで自分で作って、それで無料で配る。それも自分一人でやるんじゃなくて、クラスみんなに声を掛けて、手伝ってもらってという、そういういわゆる起業家精神、それから社会への貢献というのを考えた、そういう学生というのがたくさん出てきたという。これはとても、僕はいいことだと思うんですね。

今、アメリカではBlack Lives Matterという動きがありますけども、あれ、でもデモで、黒人のことなのに、白人の若者がたくさん参加しているのは、あれはジェネレーションZで、社会への貢献というか、そういうことを非常に考える学生が多いんですね。

それから、今回、大学の授業がオンライン化したことで、大学を辞めた学生というのが非常に多かったですね。私はなぜ大学を辞めたんだろうというふうに考えて、辞めた学生にも聞いたんですけれども、なぜ辞めたかという、クラスで他の学生とか先生と会えない。オンライン授業で、対面でなければ、そういうようなことができないから辞めた。私は授業がオンラインだとあんまり良くないから辞めたんだと思ったんですけど、そうじゃ

なくて、大学というのはそういう社会的な活動をする中で伸びる場所なので、そういう対面の直接的な社会的活動ができないんだったら、大学に行ってもしょうがないと言うので、なるほどなと思ったんですね。みんな、大学に行く必要というのはもうなくなったということで、大学を辞めた学生というのがかなり多いんです。

その学生の一人ではないんですけれども、このDante Buckleyという人はOnwardというゲームソフトの会社を持っている人です。この人は高校を卒業した時点で、大学にはもう合格していたんですけれども、大学にこのまま、直接行くのはちょっと残念だからということで、大学の授業料を使って、1年、ギャップイヤーというんですけれども、大学に行かないで、自分の好きなことをやりました。そしたら、ゲームソフトを作るということをやり始めて、それがみんなにウケて、今は会社の社長をやって、大学に行っていないんですね。

それで今回、このコロナウイルスの問題が起きて、大学を辞める学生というのが増えた時点で、これはわれわれ大学に勤める者にとっては大きなチャレンジというか、大学の意義というのはい体何なんだろう。大学の役割というのはい体何なんだろう。これは筑波大学の写真を使ってしまいましたけれども、私は筑波大学の役割について疑問を投げ掛けているわけじゃなくて、筑波大学の皆さんにお話しているの、筑波大学の写真を使っているだけです。

日本でも恐らく今回、大学の役割とは何だろうというふうに考えている人が実は多いんじゃないかと思うんです。これは大学の中にいる大学の職員の人、大学の先生もみんな、考えないとイケないことだと思う。今、アメリカでいわれていることは何かといいますと、大学の卒業証書の意義というの、役に立つのは大学を卒業して最初の仕事を得るときだけである。それ以降はもう大学

## Dante Buckley



## 大学の役割



## 大学卒業証書の意義

- 大学の卒業証書が役に立つのは、大学を卒業して、最初の仕事を得る時だけである
- その後は、個人の能力次第である



の卒業証書というのは役に立たない。それからはもう個人の能力、スキル、どんなことができるか、何ができるか、どれくらいできるか。それで給料が上がったり、社会で活躍するとか、昇進していくとか、社会に貢献していくという、それがかかっている、大学の卒業証書が役に立つのは卒業したときだけである。そういうふうな考えというのが非常に強くなってきました。

日本でも私はこういう考えがそのうち強くなるんじゃないかと思うんです。だから、筑波大学にご入学になって、僕は別に損をしたとは思わない。筑波大学を出たということで、会社で面接してくれるということもあって。変な大学に行くと面接さえしてくれないということで、筑波大学を出たということは無駄にはならないと思いますね。それから、日本の場合には大学を卒業したのと高校を卒業したのでは生涯の給料が1億円ぐらい違うとか、そういうことがあるので、大学を卒業するということは無駄にならないけれども、今回、大学の授業がオンライン化して対面授業、それからさっき言ったキャンパスに行くと、いろいろな人と会うとかそういうようなことがなくなったときに、大学の意義は何なんだろうという

ことを日本でも恐らく考える人が出てくるんじゃないかと思う。

アメリカではもう既に大学の意義というものに疑問を持っている人というのがたくさんいます。例えばこのリストを見ていただきたいんですけど、このリストは会社の名前が書いています。これは何か分かります？ Apple Computer、Google、Penguin Random House という出版社です。それからホテルの Hilton です。

Apple  
Computer  
Google  
Penguin  
Random House  
Hilton  
IBM

Costco  
Starbucks  
Bank of America  
Ernst Young  
Home Depot  
Whole Foods

## 好奇心



## 生涯学習



IBM、Costco。日本にも Costco がありますよね。それから Starbucks、Bank of America、Ernest Young というアカウンティングの会社ですね。それから Home Depot、それから Whole Foods。これはアマゾンが買ったスーパーマーケットです。これは何のリストか分かりますか。これは、実は就職するのに大学卒業資格が要らない会社なんです。こういうような会社というのが、今、アメリカではどんどんどんどん増えていて、とにかくその人のスキルで。ビル・ゲイツとか、それからフェイスブックのマーク・ザッカーバーグという人はハーバード大学中退で、それから Apple Computer を始めたスティーブ・ジョブズも大学を卒業していませんし、もうとにかく社会で活躍するためには大学の卒業証書なんて関係ない。それぞれの人が持っているスキルだという時代で。

日本でも名前は言えませんが、東京にある某私立大学の文学部を卒業すると有名な作家にはなれないけれども、中退だと有名な作家になれるという大学がありますけれども、それと同じで、大学の卒業資格なんていうのはスキルがあれば要らないという、そういう時代にアメリカではなりつつある。そういうことだと、いわゆるスキルを身に付けないといけないということで、やっぱりスキルを身に付けるためにはいろんな興味を持って、好奇心を捨てないとか、好奇心をずっと持ち続けるということが大切です。

それからもう一つ、生涯学習ということで、一生、新しいものを学習し続ける、そういう能力がなければいけない。これは 21 世紀、これからもうどんどんどんどん大切なことです。

例えば日本は年金のシステムというのが絶対崩れることはないです。若い人がどんどん、年金にお金を納めていますけれども、老人が増えるので、老人が受け取る年金というのが減っていくだけで、年金のシステムは崩れないけど、もらう年金は減っていく。それから、年金をもらえる年齢というのはどんどん上がっていくわけですね。そうして日本というのは平均寿命が非常に長いですから、これからは、皆さんが年を取った頃には 80 を超えても働き続けないといけない。年金だけでは生活できない。そのためにはずっと好奇心を持ち続けて、生涯学習を続けるということがこれからどんどんどんどん大切になっていくと思うんですね。

私は実は 2 月に筑波大学でやっぱり講演をしたんですけど、そのときに、今の世界というものは VUCA World であるということを使ったんですね。VUCA

## VUCA World



## 破壊的革新



World の VUCA というのは何かというと、Volatility ということでいわゆる変動制。社会がどんどんどんどん変わっていく。Uncertainty ということで不確実性。何が起るかわからない。Complexity ということで複雑である。あるいは Chaotic である。それから Ambiguity ということで曖昧である。今の 21 世紀の社会というのはそういう社会なんですね。この VUCA World で、やっぱり今の予測では 21 世紀……。ですから、皆さん、

これから21世紀をずっと生きていくと思いますけれども、このVUCA Worldが続いていく。今回のコロナウイルスのことで、このVUCA WorldがさらにVUCAになった。そういうようなことがいえる。さらに先が読めない。そういうような時代になって。

今は破壊的革新ということで、Disruptive innovationの時代ということで、古いものを壊して、新しいものがどんどんどんどん出来上がっていく。古いものを改良するんじゃなくて、それを壊して、新しいものがつくられていくという時代だと思えます。別にこれはコンピューターとかテクノロジーだけじゃなくて、社会の仕組みもそうだと思うんですけれども、今回のコロナウイルスでこの破壊的革新というのがさらに進んだと思う。例えば会社の制度がだんだん崩れてきて、3密の会社じゃなくて、リモートワークになるというのも、これは破壊的革新の一つじゃないかと思えますね。それから、破壊的革新ということを進めている一つはデジタルトランスフォーメーションで、リモートワークが進んだために、いろんなことがデジタルで行われるようになる。これがさらに進んできたということがいえると思えます。

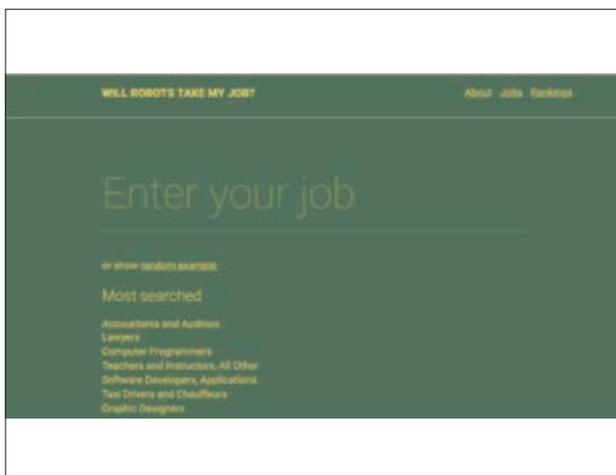
そういう中で、ロボットが人間の仕事をする。3密ということで、人間同士が近くで仕事ができない。そうするとロボットに代わりに仕事をしてもらおうというのがコロナウイルスのおかげでさらに進んで、これは後で皆さん、行って、調べてもらいたいんですけど、「WILL ROBOTS TAKE MY JOB?」これはウェブで「.com」というところに行っていただいて、仕事の名前を入れていただくと、その仕事がロボットに将来、何パーセント取られるかというのが出てくるんです。私は教師なので「教師」と入れると、ロボットに1%しか取られないんですけども、例えば銀行の窓口の人の仕事は98%、ロボットに取られると書いてあります。ですから、そういうふうにとんどんとんどん、ロボット、AI、コンピューターに仕事を取られる。

そういう中で人間が生きていかないといけないんですけども、労働の将来ということを考えて、2030年までに現在ある仕事の40%は不要となって、他の仕事に取って代わられる。それから2030年までに、現在18歳から34歳の人たちがしている仕事の1,500万は自動化される。それから2025年までに人間対機械の仕



### 労働の将来

- 2030年までに現在ある仕事の40%は不用となる
- 2030年までに現在18歳から34歳の人たちがしている仕事1500万は自動化される
- 2025年までに人間対（AIに裏付けられた）機械の仕事の割合は48対52になる



### 時間・空間



事の割合は48対52になるということで、これは実はかなり optimistic な、楽観的な見方で、実はもっと機械に仕事が取られるというのが現実になってくるんじゃないかといわれています。

それで、今回のやはりコロナウイルスのまん延で分かったことは、時間・空間ということが変わった。空間ということになると、いわゆる対面ではなくてオンラインということでスペースの使い方が変わってきた。オンライン授業になってくると、対面授業のときには同時にみんなが授業を受けたんですけども、オンラインになると自分の自由な時間に取りられるということで、時間的なこともなって、そのおかげで人間が変わる。これは人間の間と書いていますけれども、他の言い方をすると仲間。仲間というのが非常に重要な、そういう時代になってきたということで、時間・空間・人間が大きく変わってきたということです。

皆さん、これから21世紀を長いこと生きていかないといけないんですけども、自分自身、これからの未来に耐えられるように Future Proof、あるいは未来にもう備えて Future Ready にしていけないといけない。そ

のためにはいろいろなスキルを身に付けていかないといけないと思うんですけども、実は先ほどから私が話してきた能力、スキルというのは、実はこれから21世紀のグローバル社会を生き抜くためにとても大切な能力。例えばさっき言った創造力とか360度思考、あるいは批判的思考能力、高度の思考能力、クリティカルシンキングスキルですね。それから柔軟性。変化にすぐ適応できる適応性。

それから忍耐力。20世紀は、努力すれば必ず報われる社会だったんですけども、21世紀は努力しても成功するとは限らない社会なんです。ですから、失敗してもくじけないで立ち上がる忍耐力、そういうものが大切です。

それからさっき言ったつながる力。社会的につながって、社会をつくっていくとかそういう力。実は筑波大学に門脇厚司先生という先生がいらっしゃって、教育学の先生で教育学類の学類長もなさったと思うんですけど、その後、筑波何大学でしたっけね。前は筑波女子大学とっていたんですけども、吾妻3丁目にある大学の学長さんをやって、つい最近までつくば市の教育長をなさっていた先生が「社会力」ということを言っています。

### Future Proof (耐未来性)



### グローバル社会を生き抜くために

- つながる力
- 共感力
- 好奇心
- 生涯学習能力
- 内省能力



### グローバル社会を生き抜くために

- 創造力
- 360度思考
- 柔軟性
- 適応性
- 忍耐力



### グローバル社会を生き抜くために

- 協働力
- コミュニケーション能力
- リスクをおかす勇気
- 自己管理能力



これは機会があったら、ぜひ先生の本を読んでいただきたいんですけど、そういう社会をつくるとか社会に貢献する、そういう力というのがこれから生きていくためには絶対必要。

それから、さっき言った共感力ということで、感性を高めるといふ、そういう自分の感情を理解する。感情で人を判断するんじゃなくて、感情を科学できる。そして、他人に同情するとか、同情、共感する。それから既にお



話ししました好奇心を持ち続ける。生涯学習能力。自分のことをよく分かるという内省能力。それから協働力、コミュニケーション能力。これはさっき言いましたけれども、オンラインで、協働で仕事をするとか、オンラインでコミュニケーションをうまくする。そういう能力というのはこれからどんどんどんどん大切になっていくと思います。これから説明しますが、リスクを冒す勇気、それから自己管理能力というのがとてもこれから大切になってきます。

先ほど私が言いましたが、今年の7月20日、今日と、それから去年の7月20日を比べるともう本当に大きな変化がありますけれども、実は変化というのはいいチャンスなんです。今、New normal ということで、日本語では新状態というふうになっています。New normal といいますけど、実は Abnormal だと思います。こういう Normal じゃない、Abnormal なときというのは、実はリスクを冒して、いろんなことをトライするいいチャンスなんです。変化があるときはリスクを冒すチャンスなんです。ですから、これから生きていくためにはリスクを冒す勇気、失敗を恐れない、失敗から立ち直る。20世紀は努力すると成功した時代なんですけれども、21世紀は努力しても成功するとは限らない。それでも何かやらなかったら、絶対うまくいかない。そういう時代なんです。アメリカでは起業した場合に成功するのは8%で、92%は失敗する。それでもみんな、いろいろ起業して、新しい会社をつくっていく。そういうようなことがこれからの社会では絶対必要なんです。

それで、これからの時代を生きていくために必要なものとして、私は二つの概念というのを挙げたいと思います。一つは Serendipity ということなんですけど、これを日本語で訳するのが非常に難しい言葉で、日本語で何て訳したらいいのかということで、私はウェブで調べてみたら、あるウェブサイトでは英語から日本語に訳することができない単語 25 語というのがあって、その中にこの Serendipity というのが入っていたんです。

Serendipity というのはどういうことかということ、期待していなかった、予想していなかったのにもかかわらず、偶然、幸運にぶつかるとか、偶然、いい考えが浮かんでくるということを Serendipity といいます。この Serendipity ですけれども、先ほども言いましたように、20世紀というのは先の予測がつく時代だったから、これをやろうと思って計画を立てるとある程度、計画どおりにいって成功するということが可能だったんだけど、今、数カ月前に計画したということがもう働かない。

## Serendipity



私は、本当は今日は新宿にいる予定だったんですけども、その予定も崩れてきて、もう完全に予測がつかないところで何かいいことが起こるということは、この Serendipity というのが非常に重要なんですね。

偶然、起こるんですけども、Serendipity を起こすためには常日頃から準備というのが必要です。どういうことが必要かという、たくさんの情報を持っているということ。たくさんの人と付き合う。できるだけ自分と違う人と付き合う。洞察力を高める。それから、何かあったら、すぐ行動する。そういう力というのがなければ、Serendipity というのは起きない。

実は大学というのは、Serendipity が起こる場所なんですね。起こらない大学もあると思いますけど、私の大学というのは Serendipity が起こる。例えば私なんかは授業をやっている、学部生に授業をやっても、学部生からすごい質問が出てきて、そのおかげで研究テーマが見つかるということもあって、私はそれが大学の一つの意義だと思うんですね。だから、皆さんもクラスで、先生からじゃなくて、クラスメートと付き合って何かを話している。サークルをやる。そういうような中で、この Serendipity が起こる。やっぱり将来、Serendipity が起こるように、そういういろんな情報を持っていくとか、人と付き合うとか、そういうことをしておく必要があると思うんですね。

それからもう一つ、恐らく初めて聞く言葉かもしれませんが、Serendipity を起こすためには Multipotentialite になる必要があると思います。恐らく初めて聞くと思いますけど、僕はマルチポテンシャルイトと言いますが、英語を見ると分かりますけれども、いろんな能力を持つということが大切なんですね。いろんなスキルを持っている。いろんなことに興味を持って、やってみる。

## Multipotentialite



これは 17 世紀のフランスの哲学者のパスカル。パスカルの定理とか、パスカルの公理とか、「人間は考える葦である」と言った有名なパスカルが言っているんですけど、あの人自体、非常に天才で、哲学者であったり、物理学者だったり、数学者で、彼自体、Multipotentialite の素晴らしい人だったと思うんです。彼が言っているんですけど、一つのことについて深く深く知っているよりもたくさんのことを少しずつ知っていたほうが良いと思うんですね。実はこれがまさに Multipotentialite で、大学で、例えば専攻があると思いますけれども、いろんなものを極めて……。極める必要はないと思う。知っておく。それが将来、Serendipity が起こる一つの条件だと思いますね。

先ほど大学というのは Serendipity が起こる場所だと言いましたけれども、例えば文学の学生と、それから生物学の学生がロシア語のクラスを取って一緒に授業を受けている。そういう異なることをやっている人間が一緒になれるという、そういうことが、大学が Serendipity が起こる場所であるゆえんだと思うんですね。そういう場所にやっぱり大学というのをしていく。それが社会貢献の一つだというふうに思います。

ですから、この Multipotentialite になるように、ぜひ僕は大学の中にいるうちにトレーニングしてほしいと思います。そのためにはやっぱりいろんな人と付き合う。今の状態ではそう簡単に対面で付き合うことができませんから、オンラインでソーシャルメディアを使って付き合うとかそういうことをして、いろんな知識、いろんなことに興味を持っているということがとても大切だと思いますし、やっぱり好奇心を持ち続ける。それから生涯学習能力ということで、ずっと学習し続けるという、そういうようなことが必要なんではないかというふうに思います。

## 自己管理能力



ですから、大学にきた価値というのは何かというと、今回、私もコロナウイルスが出てきたおかげで分かったんですけど、大学の先生に何か教えてもらうということじゃなくて、他の学生と付き合うとか、いろんなことを大学の中でやって、社会活動を行うことによって、いろんな能力を付けるということなんですね。その中で、僕は、一番重要なのは自己管理能力だと思います。自分のことをよく知って、自分に足りない能力は何だから、これを勉強しないといけないというふうに自分で判断して、そのためには何か習慣づけて、自分をモチベートして、それで何かを続けるとか何かを学ぶという、そういう自己管理能力を身に付けるということが21世紀に生きるということでもとても大切だと思うんですね。

僕が大学にきた意義は何かということ考えた場合に、先生に何かを教えてもらうという、そういう場所ではないと思うんです。今、ほとんど大学のいわゆるサイエンスでない限り、humanitiesとかsocial scienceだったら、先生がいる中でこういうことを言っちゃ何ですけど、先生の頭の中にあるものなんか全部、インターネット上にありますから、自分で調べて勉強しようと思ったら、自分でできます。できないのは何かというと、社会活動をして自分の能力を上げていくということ。ですから、21世紀を生き抜くためには、自分の能力をどんどん自己管理して、どういう能力が必要か。また、社会を見て、どういう能力が必要かを見極めて、新しい能力を身に付けていく必要があります。

20世紀は一つの能力を身に付けると、その能力の価値が半減、半分になるのが20年かかります。21世紀は新しい能力を身に付けると、その能力の価値、バリューが半減するのが大体3年から4年といわれています。ですから、新しい能力を身に付けても、それがすぐ役に立たなくなるという。もう本当に Disruptive Innovation

Upskilling  
Reskilling  
Reimagining  
Reinventing  
Recreating



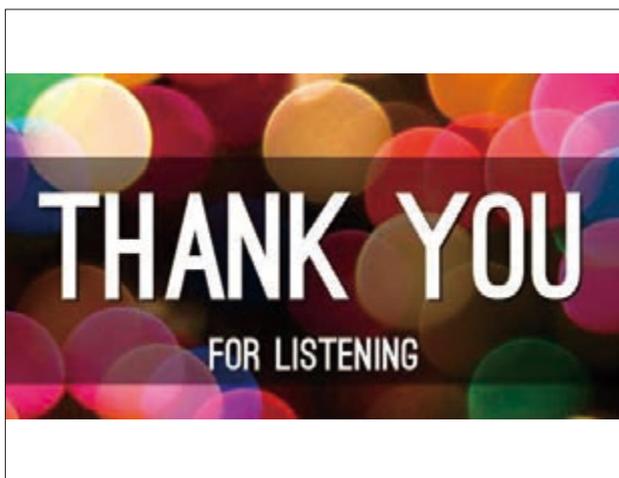
がどんどんどんどん起こって、変化が激しいので、Upskilling ということでスキルを上げる。あるいは再スキルを付けるということで Reskilling。それからつくり直すということで Reimagining、Reinventing。それから自分をつくり直すということで Recreating という、そういうようなことをしていく。大学にいる間にそういうことをしていく。大学はそういうことができる場所だと僕は思うんですね。

ですから、新入生でこれから4年間、あるいは大学院に行く人はもっと長いと思いますけれども、大学にいる時間というのを無駄に過ごさないためにも、今日、今、お話ししたような能力。今日、お話しした能力は今の時点で必要だという能力ですけれども、今、どんどんどんどん社会が変わっているんで、今日、お話ししなかったような能力というのが出てきて、それが必要になってくる可能性というのも大きいし、それから、今は重要じゃないけれども、これから何年後に非常に重要になるとい、そういうような能力というのも出てくるということだと思っんですね。そういうような能力をいろいろ身に付けておくと、さっき言った Multipotentialite にもなれると思いますし、それから Multipotentialite になって自己管理能力に優れていると、この Serendipity というのが起こって、偶然、何かいい考えにぶつかって、いい会社を起こすとか、そういうようなことが起こると思うんですね。

これから労働社会というか、仕事というのはどんどん変わって行って、今回、富士通がリモートワークにする。そうなる则社なんていうのが要らなくなって、本社ビルなんてなくなって、みんな、リモートになる。東京に住んでいる意味というのはなくて、田舎に移って、田舎で仕事をする。これは日本にとってはいいことで、少子高齢化を防ぐためには日本の田舎の人口を増やさない

いけないんですけど、これはとてもいいことだと思うんですね。だから、これから働き方も違う。そうすると仕事で必要な能力も変わってくる。

これは最近、聞いたことなんですけれども、今、アメリカではやっているのは、世界中を旅行しながら、インターネットを通して自分の仕事をやっていく。これは今、インターネットがあるので、コンピューターのプログラミングの仕事なんかはどこにいてもできるわけですよ。それで、ビザが切れると一つの国から別の国に移って、仕事を続けていって、それでちゃんと収入はあるので、旅行を続けて世界で見聞を広めながら、自分の好きなことをしていく。2035年にはこういうことをするノマドの人が15億人になる。そういう時代なんですね。だから、そういう時代に備えて、皆さんも大学の4年間を頑張っていたいだきたいと思います。どうもありがとうございました。



**白山** 當作先生、長時間にわたりまして、本当に先を見通すような刺激的なお話をたくさんしてくださいました。きっちり1時間、ご講演を頂いたんですけれども、當作先生のご厚意で、学生さんたちからの質問を幾つか受け付けてくださるということです。もし當作先生に今日のお話を受けて、ぜひともこれを聞きたいとか、あるいは感想でもいいんですけども、ございましたら、何人が質問して下さっても構わないと思っておりますがいかがでしょうか。もし発言する場合はミュートを外して、できればビデオの停止を外して、顔を見せていただいて、名前と所属を教えてくださいました上で質問等をしていただければと思いますが、いかがでしょうか。なかなかこういう機会はありませんので。学生の皆さん、いないでしょうか。

**氷見和裕（筑波大学生命環境学群1年）** すみません。質問をよろしいですか。

**白山** はい、どうぞ。

**氷見** 所属は生命環境学群生物学類で、名前は氷見和裕です。

**白山** はい、ありがとうございます。

**氷見** 質問があるんですが、今回の話のテーマが「これからの時代に必要な能力」というのがありましたけど、今、筑波大学の英語の授業で使われている教材の『実践ビジネス英語』というテキストで、ちょうど今回の7月号のテーマにも「21世紀スキル」というのが、これからの時代に必要な能力というのがテーマになっているのですが、そこから先生は着想を得られたのでしょうか。

**當作** 今、21世紀にどのようなものが必要かというのは、OECDとかアメリカの21世紀のスキルのパートナーシップとか、その他でもいろんな研究がなされていて、やっぱり子どもを育てて、21世紀に生きられるようにするためにはどういう能力を学校教育で身に付けなくちゃならないかということで、特にこれはOECDが一番よく研究しているんです。いろんな研究があって、私もそういうような研究を参考にしていますし、自分のクラスでもそういう能力が……。私は日本語を教えているわけなんですけれども、日本語のクラスとはいえ、そういう能力を身に付けることこそ、日本語の能力を身に付けるよりももっと大切なことだと思って、私は教育しています。

**氷見** ありがとうございます。

**白山** ありがとうございます。他に学生さん、いかがでしょうか。

**細川隆之介（筑波大学情報科学類1年）** 質問をしてもよろしいでしょうか。

**白山** はい、どうぞ。

**細川** すみません。情報科学類の細川隆之介です。チャットのほうにも書いたのですが、日米社会20年遅延説というものがありまして、アメリカで起こったことは日本で20年後に起こるかもしれないという説なんですけれども、それを踏まえて、今、アメリカで起こっていることでこれから20年後、私たちが直面するかもしれない問題というものはあるのでしょうか。実際にアメリカで生活している先生にお伺いしたいです。

**當作** やっぱり先ほど大学が変わるということで、日本はしがらみがあって、なかなか大学が変わらないんです。さっき言ったように、大学の意義というのが今、アメリカではもう考え直されているんですけれども、将来、日本もそういうふうになってくるんじゃないかと思うんです。

どうしてかという、これから富士通が本社というビルをなくすとかいろいろ言っていますけれども、リモートワークというのが出てきて、働き方というのが変わってきて、大学の卒業証書よりもやはりスキルというものが大切になってきて。

例えば会社に今年、雇われた人もまだ一度も会社に行ったことがないという新入社員の人もかなり多いんですね。これでそのまま「はい、じゃあ、リモートワークにしますから、自分の好きなところでうちの会社の仕事をやっていいですよ」と言うと、会社にももう来ないから、会社の帰属意識というのが崩れてくるんじゃないかと思うんですね。愛社精神とか。

そうすると、どういうことが起こるかという、副業でいろんなことをやったりして、例えば会社の経理の仕事なんていうのは外でやっていると、別に自分の会社の経理だけじゃなくて、暇なときには別の会社の経理もやりますということで、1人で何社も別の経理の仕事をするという、そういうような働き方というのが今後、日本でも出てくると思うんです。そうすると、大学を卒業したということよりもどういう能力を持っているかというのが、おっしゃったように、アメリカに日本はいつも遅れていますけれども、これから日本も変わっていく。

僕はさっき、変化はチャンスと言いました。僕は例えば大学が9月開始というのは、結局、始まらなかったですけど、僕は9月始まりがいいとは思わない。卒業式がやはりサクラの季節にあると、森山直太郎もずっと一生、あの歌を歌い続けられるかもしれないけれども、結局、もっと大学というのはこれを機会に変化すべきだと思うんです。

僕はアメリカと日本の大学を経験していますが、日本の大学に行ったあの何年間は全然、自分の人生に役に立っていないと100%、確信を持って言えます。なぜもっと早くアメリカの大学に行かなかったか。それぐらい僕は……。筑波大学は例外でしょうけれども、それぐらい僕は日本の大学教育は役に立たないと思っています。だから、僕は、大学は変わるべきで、みんなもやっぱり学生としてpassiveにならないで、大学とはどうあるべきかというのをもっと発信していくべきだと思います。それがジェネレーションZだと思います。よろしいですか。

**細川** はい。とても勉強になりました。ありがとうございます。

**當作** 頑張ってください。

**白山** ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

遠慮なく。

**野田健祐（筑波大学理工学群1年）** 質問をよろしいでしょうか。

**白山** はい、どうぞ。

**野田** 初めまして。所属は理工学群応用理工学類の1年生の野田健祐と申します。先生に一つ質問があるんですけども、まずは本当に非常に素晴らしい講演をありがとうございました。非常に勉強になりました。

そうですね。先生が講演の中で、これからの仕事が機械にだんだん取られていくものが増えるとおっしゃっていました。その中で教師という仕事は機械に取られるのがたった1%だと先生がおっしゃっていたんですけど、個人的には結構、それが何か驚いたというか。今、オンラインの教材とかそういうものが結構増えてきているので、教師という仕事あまり機械に取られないというのは、先生は一体それはどのような考察とかお考えになったのかなというのがちょっと気になりました。

**當作** 私の知っている先生の中でも、いわゆる知識を切り売りするとか知識を伝えるだけの先生がいると思うんですね。そういう先生というのは恐らくロボットに取って代わられると思うんですけども、そうじゃない、例えば学生に自分でいろいろ考えさせるとか、自分について発見させるとか、そういうような先生というのは絶対、ロボットに代われない。さっき言いましたけど、ロボットとかAIとかコンピューターの弱いところというのは共感なんです。つまり相手の心を知って、それで教える。そういう部分はロボットにはできないんですね。だから、そういうような先生というのはロボットに取って代わられてはいけないし、それからロボットが教えていては、さっき言ったSerendipityというのは絶対起こらないと思います。

ですから、1%というのは、恐らくそういういい先生はロボットに取って代わられることはないという意味だと思います。でも、悪い教え方をしている先生というのは、恐らくロボットに取って代わられても全然、学生には影響力、インパクトはないと思います。よろしい？

**野田** 分かりました。ありがとうございます。

**白山** ありがとうございます。もう1人、2人、いかがでしょうか。学生さん、どうでしょう？

**本原彩那（筑波大学医学類1年）** 質問をよろしいでしょうか。

**白山** はい、どうぞ。

**當作** どうぞ。

**本原** はい。こんにちは。医学類1年の本原彩那です。

今回はご講義をありがとうございました。

先生にお聞きしたいことがあるんですけど、先生のお話を聞いている中で、やはり他分野において、いろんな知識が必要だという話をされていたのですが、私は日本の高校の文理選択という制度がそういう弊害をしているのではないかなと思うんですよ。例えば文系は数学とか物理はもうやらなくていいとか、理系は政治について知らなくていいとか、そういう弊害があるんじゃないかなと思うんですけど、そこら辺の意見を聞きたいです。

**當作** 僕がアメリカに来て一つ驚いたのは、いわゆるいろんなことに優れた学生が多い。一つのことだけでなく、いろんなことができる。それもアメリカの場合には、例えばスポーツをやってもできる。勉強をやってもできる。それでボランティアで社会にも貢献してリーダーになっているとか、そういう人たちがごろごろごろいっているんですね。

それはやっぱり幼稚園、あるいは幼稚園に入る前からの保育園とかの教育というのが、人間の能力をどういうふうにして生かしたら、社会にとっていい人間ができるかというのを考えて教育をしているということで、僕は今、おっしゃったように、日本の教育の弊害というのはいろいろあると思うんです。やっぱり僕は日本の教育というのを見直す必要があるというふうにはつきり思いません。

皆さん、そういうふうになったら、やっぱりそれを発信していかないといけない。大人を変えるのは、やっぱり皆さん、若者だと思います。今、アメリカで Black Lives Matter が起こっていますけれども、あれも若い人たちが動いているんですよ。もうわれわれのような年寄りというのは何をやっても、もう頭が固くて動かない。やっぱり若い人が「自分はこういう教育を受けたために、こういう弊害があつて、日本の社会はこうなっているから、もっと社会を変えないといけない」ということで、僕はもっと今の若い人たちは政治的になるべきだと思うんです。アメリカでも僕は今の若い人たちに言うんですけど、今のアメリカの若者というのはすごく政治的に動くようになっているんですけど、そうでなかったら、社会を良くできない。自分の子どもの次の世代につなげていくということができないと思うんですね。

だから、今、あなたが思ったように、高校の教育が良くなかったと思うんだったら、そういう高校の教育は変えないといけないということを、コミュニティーをつくって、みんなで言っていくという、そういうようなことをぜひしていただきたいというふうに思います。です

から、まず日本の教育が良くないというのは私も賛成です。

**本原** はい、ありがとうございます。

**白山** ありがとうございます。先生、まだ大丈夫ですか。

**當作** まだ大丈夫です。

**古田成美（筑波大学人間学群 1 年）** 質問をよろしいでしょうか。

**白山** はい、どうぞ。

**古田** こんにちは。所属は人間学群心理学類です。

先生は講義の中で好奇心が大切だとおっしゃっていたんですけど、コロナでずっと家にいる中で、物事への興味とかがだんだん減っていつているなど自分で感じるんですけど、こうやって外部の刺激とかが減っている中でも、好奇心を高めるために何かできることなどがあれば、教えていただきたいです。

**當作** 先ほど言ったんですけども、ソーシャルメディアをうまく使うことで自分の興味があることを探していくとかそういうようなことがとても大切で、何にでも興味を持つということが大切なんですね。

今日、ちょっとお話しできなかったんですけども、このコロナの問題が出てきたために、今の時代というのは質よりも量の時代になったといわれています。つまりいろんなことをする。

さっきパスカルの話をしましたけど、とても一つ、質の高いことをやるんじゃなくて、質が平均的でもいいから、いろんなことをやる。そのためには、いろんな情報を得るためには今の家の中にいて閉じこもっている場合には、ソーシャルメディアを十分、多用するとか、そういうことをして。私もソーシャルメディアをつい最近、自分で新しいアカウントを使って、外の人とつながるようになったら、いろいろ新しい情報が入ってきて、面白いことを考えている人がいるんだなという、そういうようなことが分かってきて、とても面白い。

心理学をやっているんですか。

**古田** はい。

**當作** 実は心理学の研究で、つい最近というか、2～3年前に発表になったんですけども、人間が一生、好奇心を持ち続けるかどうかというのは子どもの3歳までの教育で決まるという研究結果が出たんですよ。だから、もうあなたは3歳じゃないから、どうか分からないけれども、僕は大人になっても、好奇心というのを育むというか、それは可能だと思うんですよ。

だから、ちょっとこの論文を探して見てほしいと思うんですけども、ウェブ上で例えば好奇心を持つために

はどうしたらいいかというのをサーチして、検索するだけでもいろんな意見が出てくると思います。それを知るだけでもとても自分の役に立つし、自分の心理学の研究にも絶対役に立つと思います。

だから、そういう意味で好奇心を捨てるべきじゃないし、好奇心というのはどんどん自分でモチベートして、動機付けることによって伸ばすことは可能だと思う。その好奇心がなければ、これから絶対生きていけないと思います。よろしいですか。

**古田** はい、ありがとうございます。

**白山** 本日はスタッフ研修も兼ねておりますので、教職員の方でももしご質問があれば遠慮なくどうぞ。いかがでしょうか。

**土井裕人（筑波大学人文社会系助教）** すみません。人文社会系の土井と申します。うまくカメラが出ないので、申し訳ないんですが。

**白山** ああ、土井先生、どうもありがとうございます。

**土井** すみません。今日、ありがとうございます。

一点お伺いしたいことは、先生がこれまでで一番感じられた Serendipity の瞬間というのはどういう経験があったのか、ぜひお伺いしたいと思います。よろしければ、お願いしたいと思います。

**當作** 先ほども申し上げたように、大学というのは Serendipity が起こりやすい場所だと思うんですね。

例えば授業で、私はやっぱり一番最初に Serendipity のようなものを感じたのは、今、私が教えている大学の大学院の博士課程に行ったんですけども、大学院のクラスで、みんなで先生がリーダーになってディスカッションをしているときにある考えが浮かんで、それが私は自分自身の博士論文のテーマになって、非常に重要な役割を果たしたと思うんですね。

大学院の授業で何をやってたかという、これは学部の学生でも大学院の学生でも興味があると思うんですけども、私の大学の指導教官というのが非常に理論的な人で、もう本当に理論のこちこちの人なんです。大学に勤めているとそちらのほうが重用されるわけですけども。その先生がいわゆる言語学の理論ということについて、あるいは科学の理論について、みんなでディスカッションをしているときに、例えばアインシュタインの相対性理論なんかでも、あの式を見ると三つの項目が出てきますよね。それでなぜ三つなのかという、そういうようなディスカッションをしていたんですよ。先生によると「科学的には、そういう理論を作ったときに出てくる、その理論の説明のために使う道具というのは偶数

ということはありません。絶対、奇数なんだ」と言うんですね。「もしおまえたちが理論を作って、説明に使っている道具が二つとか四つとか六つだったら、その理論は間違っているから、すぐさま捨てろ」と言うんですね。

みんなでそういう議論をしているときに、やっぱり理論として一番いい理論は使う道具が三つである。一つでは説明が絶対つかないから、最低として三つ。三つ使うんだという、僕はそういうディスカッションの中で自分の博士論文のトピックというか、やりたいことで、これだったら自分の博士論文は何とかなるというのを偶然、身に付けました。

でも、それをやるためには言語学のいろんなことを勉強していたから、そうなったんだと思うんですけども、それが僕にとっては今まで、やっぱり自分の博士論文が書けたという、それもあります、それが自分にとってはアメリカに来て初めて経験した Serendipity でしたし、大学というのはこういう場所なんだというのが分かった。そういう意味で自分にとっては一番重要な Serendipity だったと思います。よろしいですか。

**土井** はい、どうもありがとうございます。私にとっては、今日はその瞬間でありました。ありがとうございます。

**當作** どうもありがとうございました。

**白山** 土井先生、どうもありがとうございます。他に教職員の方でももしご発言、ご質問したいという方がいらっしゃいましたら、どうぞ遠慮なく。学生さんでもいいですよ。どうでしょう。

**當作** バックグラウンドで犬がほえていて、どうもすみません。

**白山** いえいえ。よろしいでしょうか。

何て言いますか、Zoom と言いますか、オンラインだと質問しにくいという、そういう学生さんもいらっしゃるかと思いますので、一度、この講演会を閉めた後に、どうしても先生に質問したいという、そういう学生さんがいましたら、切らずに少し残っててください。教職員の方でも結構です。當作先生が「講演会が終わった後に、もしもどうしてもこういうたくさんの聴衆のいる中でご発言しにくいという、そういう方がいると思うので、少し何人か残して質問を受けてもいいですよ」ということをおっしゃってくださっていたので、ちょっと引込み思案の方もいらっしゃると思いますけども、終わった後に残って質問をしてはどうかと思います。

それでは、学生さんのほうからも数多く質問ができましたし、また教職員の方からも質問が生まれて、見事なご

対応をしていただきました。

今日のご発表は多岐にわたっておりまして、私自身、今日のお話を聞いて、一番印象に残ったのは、ピンチはチャンスであるということをよくいわれていますけども、本当に手足が縛られているような、そういう人間の社会活動の非常に制限された厳しい状況の中で、オンラインで今、大学陣も、それから企業も、学生さんもそうですけども、乗り切ろうということをしているわけです。

その中で、非常に不自由な中でも創造性と、柔軟性と、それから適応性、これを発揮していけるんだということ。そのためには不自由なんだけど、やはり社会とのつながりを持っていかないと、人間は1人では何も生まれえないという。今のこのオンラインの時代だからこそ、ソーシャルメディアをうまく活用すると。使われてはいけなけれども使う。そういう技術といいますか、力が必要だというようなことですね。

それから、やはり大学という場所がクリエイティブティーを生む。そういう社会的な機能を失っていないんだということを聞いて、改めて大学の社会的意義というものを私自身、感じたといいますか、これからまた大学でいろんなことを発信していきたいなというふうに思いました。

今日、初めて私は當作先生から教えていただきましたけども、いろんな人といろんな意見をぶつけ合いながら、自分が絶え間なく好奇心を持って、知識を吸収しながら学び、社会活動をしていく中で Serendipity という、偶然良い、何か社会にインパクトを与えるような、そういう考えが出てくるんだということ。それが時代と社会をもしかしたらこれから切り開いていくことになるのかなということ。

それから、Multipotentialite という、もうとにかく何でも嫌うことなくチャレンジしていくという、いわば異種格闘技のような、知的異種格闘技、これを心掛けることが重要じゃないかというお話があったと思うんですけども、私自身、どっちかという職人的な気質で一つのことをぎゅっとう突き詰めていくタイプでもあるので、むしろこういう時代だからこそ新たなことにチャレンジしていく必要があるのかなというふうに感じた次第です。本当に私自身もたくさん勉強させていただきました。ちょっと余計なコメントだったと思いますが、司会者のほうから以上、感想を簡単に述べさせていただきました。

最後に當作先生に非常に素晴らしい、ノンストップでエネルギーに分かりやすい、しかも聞いたことのないような、わくわくするようなお話をたくさんしていた

いただきました。當作先生にこの聴衆者の高ぶりといいますか、あるいは喜びというか、この講演会を聴いて良かったというその感情がなかなか、この画面を通じては伝わらないんですけども、これがちょっともどかしいんですが、皆さんの顔は見えませんが、私のほうから、皆さんも画面上で拍手していただきたいと思います。本当にありがとうございました。

**當作** どうもありがとうございました。

**白山** 1年生も本当に勇氣100倍というか、いろんな意味で知的刺激を受けて「さあ、学生生活、頑張ろう」と感じてくれたことと思います。教職員の皆さまもまた新しい働き方について、大学の仕事について、たくさん考えるきっかけになったんじゃないでしょうか。

ということで、長時間になりましたけれども、本日の筑波大学オンラインによる第1回新入生に贈る特別講演会をお開きとさせていただきますと思います。當作先生、どうもありがとうございました。

**當作** どうもありがとうございました。

**白山** それから、聴講者の皆さま方、大変にありがとうございました。それでは、終わりですので、それぞれ退室のクリックをしていただいて完了と、終了ということにさせていただきます。また残って質問したいという学生さん、教職員の方はそのままお残りください。

**氷見** すみません。先ほど質問した氷見です。當作先生、もう一度、質問してもよろしいですか。

**當作** はい、どうぞどうぞ。

**氷見** 先生は先ほど私たちのジェネレーションZの特徴をおっしゃっていましたが、當作先生の世代の特徴は何ですか。

**當作** 私は何世代という、案外、はざまに生きていて、ベビーブーマーでもないし、その後の世代にも入らないという、そういうような世代で、私は自分自身、世代が、ブーマーの終わりのほうだし、次の世代の最初のほうだということであまりはっきりしないんですね。

皆さんのジェネレーションZの後にはジェネレーションαというのがもういまして、それは2011年以降に生まれた、今、小学校のそろそろ高学年になろうとしている学年で、この子たちはもう生まれたときにはiPhoneがあつて、もうiPhoneと一緒に育ってきた、そういうような年代で、ジェネレーションZともまた違うんですね。ジェネレーションαの後にはもうジェネレーションβというのが、まだ生まれていないですけども、もう来ることになっています。

これはウェブ上で調べていただくと分かりますけれど

も、そういういろいろなジェネレーションの特徴についてまとめたウェブサイトがたくさんありますから、もし興味がおありでしたら、日本語のサイトもあるかもしれないので、ぜひそれを Google でも Bing でも何でもサーチして調べてみてください。先ほど僕は三つしかジェネレーション Z の特徴を挙げなかったですけども、ジェネレーション Z の特徴もずらっと並んだものがありますから、ぜひ参考にしてみてください。

大学の先生こそ、僕は今、自分が教えている学生のジェネレーションというのはどういう特徴があるかというのを知るべきで、さっき私が言いましたように、ジェネレーション Z はアテンションスパンが短いんですよ。だから、ビデオなんかもう最初に面白いものが出てこないとも見ない。ビデオが長いと見ない。それから何でも、テキストは嫌だけど、イメージだったら見るという、そういう年代なんですね。だから、大学の先生も自分が教えている世代の学生というのはどういう特徴があるかというのを考えて教える必要があるんじゃないかなと僕は思います。ですから、ちょっとご自分で調べてみると面白いと思います。

**氷見** ありがとうございます。

**白山** その他、當作先生にご質問したいという方がいらっしゃると思うんですけど、どうぞ遠慮なく。

**滝口理奈（筑波大学人間学群 1 年）** すみません。よろしいでしょうか。

**白山** どうぞ。

**滝口** こんにちは。教育学類 1 年の滝口理奈と申します。本日は貴重なご講演をありがとうございました。

本日の Multipotentialite に関して、すごく個人的な内容の質問になってしまうのですが、私はこれまで中学校、高校の教師になりたいというふう感じていまして、魅力を感じてきて目指していたんですが、いろいろと考えていくうちにあまり魅力を感じなくなってきてしまい、現時点では教師になるという選択肢はほぼ考えていないんですね。

なんですが、教育学の専門的な学びをしていく中で、そういった教員免許状を取得するための授業を受けたりすることで、Multipotentialite の考え方に基づけば、何かそういった学びも役に立つときが来るのではないかと、いうふうに、今日、思いました。今後、教員免許状を取るための授業を履修していくかどうかということ非常に迷いまして、そこについてお伺いしたいんですけども、今の学生という貴重な時間を自分の興味のなくなったというか、あまりもう魅力を感じなくなってしまった

免許状を取るための授業に費やすのか、本当に今、自分が興味を持っていることに費やすのかということについてお伺いできたらと思います。よろしくお願ひいたします。

**當作** そういうふうを考えるというのも内省能力があるということで、とても僕はいいと思うんですね。

教師免許を取る、そういうような授業とか何とかが、教師免許が要らないんだったら必要ないということで、それをうまく他のことに利用するとか何とかという、それを考えるのはご自身だと思う。だから、何事も無駄にしないで。私の今のクッキングですけども、何でも利用して、それを自分の血として肉としていくという、そういうようなことというのはとても僕は大切だと思うんですね。

できれば教師になってもraitたいんですけども、その教師の役割の一つというのは学生のモデルになるということなんです。だから、学生に Multipotentialite になってもraitたいければ、先生も Multipotentialite にならなくちゃいけない。学生に「自分もあの先生のようになりたい」と思わせる先生はいい先生なんですよ。なぜかということ、今、言ったように、先生の役割の一つは学生のモデルになる。そのためには 21 世紀のさっきの生きるためのスキルを先生が持っていないと学生だって持たないと思うんですね。

だから「教師になりなさい」とは別に言わないけれども、もしならないんだったら、教師の免許を取るための授業というのをうまく利用して他の能力を伸ばすとか、いろんなことができると思うんですよ。だから、4 年間、これから無駄にするとは僕は思わないんですね。何か知らないうちに役に立って。

これは実は昨年 2 月に筑波大学で講演したときにお話ししたんですけど、スティーブ・ジョブズの話をしたんです。さっきスティーブ・ジョブズの例も挙げたんですけど、彼も大学を卒業していないんですよ。彼はステップファーザー、ステップマザーで、自分の実際の親ではなかったんですけども、そのお父さん、お母さんは大学に行ってもらいたかったんだけど、いろいろな理由で、途中で大学を辞めたんですね。それで、大学を辞めたけれども、その大学は小さなりベラルアーツカレッジなんですけれども、カリグラフィー、日本でいうと書道ですよ。ペン習字とかの素晴らしい先生がその大学にいたんだそうです。それで大学を辞めた後も隠れて、授業料を払っていないのに、そのカリグラフィーのクラスだけはずっと取っていたんだそうです。大学の、だか

ら、20代の前半か、それぐらいのときだったと思うんですけど。

それで、カリグラフィーのクラスを取っていて、今度、Apple Computerを始めて、自分でコンピューターを作り始めて、ご存じのように、今のマッキントッシュの基盤となるAppleを作り始めたんですけど、Apple Computerを自分でデザインして作っていて、大学を中退して10年ぐらいたったときに、カリグラフィーのクラスで習ったことが役に立った。何かというと、コンピューターのフォントなんだそう。今はWindowsのフォントも良くなりましたけど、昔はMacとWindowsのフォントを比べると、もう絶対にマッキントッシュのフォントのほうがきれいだったんですよ。それはなぜかかというと、スティーブ・ジョブズが大学を中退した後もそのフォントというかペン習字、カリグラフィーのクラスをずっと取り続けていたので、10年後に自分の役に立つと思わなかったのに、10年後に役に立ったということですよ。人間の勉強なんてそんなもので、今、役に立たないと思っているものが突然、役に立つ。

もう一つ、スティーブ・ジョブズの話を見せていただくと、スティーブ・ジョブズは京都が大好きだったんですよ。彼は自分のプライベートジェットで1年に何回も関空にサンフランシスコから飛んできて、関空から車で京都に行って、特に京都では龍安寺が大好きだったんだそうです。それでいつも龍安寺の石庭に行って、彼は本当に京都が好きで、彼が最後、がんで死にそうになったときに「自分の娘が京都に行って、帰ってくるまでは絶対死なないぞ」と言って、もう病床にあるのに、自分の娘を無理やり自分のプライベートジェットに乗せて、関空に送って、京都を見せて、それで帰ってきて、それから彼は死んだんだそうです。彼は日本食が好きで、1週間に1回、必ず日本のお寿司屋さんにサンノゼで行って、金曜日の夕方、お寿司を食べて、最後、おそばを食べて帰るのがもう習慣になっていたんだそうです。

なぜこの話をしたかかというと、彼はiPadの考えを龍安寺の石庭から発見したんです。何かというと、要らないものをどンドンどンドン取り去ると本当に簡単なものになる。だから、コンピューターからキーボードを取り去るということでiPad。キーボードが、今、付けようと思えば付けられるけど、ない。

それから、龍安寺の石庭というのは、どこから見てもきれいでしょう？ 西洋の庭園というのは対称的だから、正面から見ないときれいに見えないけど、龍安寺の石庭というのは長い廊下の端っこにいても、真ん中にいても

きれいでしょう？ それと同じように、iPadというのはこう使っても、こう使っても、どの方向からでも使えるという、その考えは龍安寺の石庭から得たんだそうです。だから、何が役に立つかわからない。

さっき言ったように、Serendipityというのは自然に起こるものじゃなくて、自分自身がいろんなものを経験して、いろんな人と付き合っ、洞察力を高めていかないといけない。何か気付く。何か起こっても気付かないで通り過ぎることだってあるんだけど、そこで気付けるかどうかという、そういう違いが出てくると思う。そういう洞察力をやっぱりスティーブ・ジョブズは持っていたから、カリグラフィーのクラスも使え、龍安寺の石庭も製品となったわけですよ。

だから、大学にいる間に、例えばさっき言った教職免許を取るクラスを取っているうちに、もしかしたら子どもはどうやって扱ったらいいかとかいうことを考える中で洞察力が高まるかもしれない。だから、何事も無駄にしないで、自分のためになるように使えるかどうかというのはあなた次第だと思う。

だから、僕がさっき日本の大学というのは本当に役に立たなかったと言いましたが、あれはちょっと言い過ぎで、日本にいた大学4年間も今の自分には非常に役に立っている。何に役に立っているかというと、学生には優しくしよう。パワハラ、アカハラはしないようにしよう。絶対、学生のためになる、学生思いの先生になろうという、そういうことでは非常にためになる。

だから、何でも、ネガティブなものでも利用しようと思えば利用できる。今、例えばこれから1年、2年後に役に立たないけども、もしかしたらこれから20年後に役に立つかもしれない。だから、もうそういうことを考えて、やっぱりこれから生きてほしいというか、大学の4年間、ぜひ考えていただきたいと思います。

**滝口** ありがとうございます。

**當作** ちょっと生意気なことを言ってしまいましたね。

**白山** 當作先生、まだ大丈夫ですか。まだ30人ぐらい残っているんですけど。

**當作** 大丈夫ですよ。

**白山** 学生の皆さん、それから職員の皆さんで、もしご質問がありましたらどうぞ。

**宮崎悠輔（筑波大学体育専門学群1年）** 質問よろしいでしょうか。

**當作** はい。宮崎さんですね。

**宮崎** 体育専門学群1年の宮崎悠輔と申します。貴重なご講演をありがとうございました。

先生はこれからの時代を生きていく上でコミュニケーション能力が大切になってくるとおっしゃっていたんですけど、自分は人に何かを伝えるのがすごく苦手で、特にZoomとかで意見を言ったりするのがすごく苦手なんですけど、アメリカで大学生と接している先生から何かアドバイスなどがあれば、教えていただきたいです。

**當作** これは別にコミュニケーション能力だけじゃなくて、例えばこの中には非常に内気で、人前に顔を見せて質問をするのは恥ずかしいという人もいると思うんですけども、いろんな、自分の性格を変えたいとか能力を身に付けたいと思ったら、やっぱり強い意思を持って自分を変えたいとか、そういうふうに自分をモチベートするというのが非常に大切です。そのためには自己管理能力とさっき言いましたけども、自分を見て、自分というのはどういう人間なのかというのをきちんと判断できる能力とか、そういうようなものを持っていないと絶対いけないと思います。

だから、これはいわゆるセルフアウェアネスというか、自分のことを知る。今、もう自分のコミュニケーション能力が弱いというのは、もう自分を知る能力があるから、その辺は、あなたはとても優れていると思うんですけども、自分を知って自分をレギュレートする。自分をコントロールする。それから自分のモチベーションを高める。それから自分の感情というのを理解して、むやみやたらに自分で判断しないで、それをうまくコントロールしていけるとか、それからさっき僕が筑波大学の門脇先生という話をしましたけど、その門脇先生がおっしゃっている「社会力」、コミュニティーをつくっていく、コミュニティーに貢献していく能力を身に付けるとか、そういういわゆるソーシャルエモショナルスキルというんですけども、そういうようなものをとにかく付けていく。そういうものが付いていくと、コミュニケーション能力も自然に上がっていく。だから、やっぱり自分を見つめ直して、自分で何をしていかなきゃならない。

ですから、たとえば体育学部とか何かにおいて体を使う仕事をしていても、例えばトレーナーになるとか、あるいはコーチになるとか、いろんなことでコミュニケーション能力というのはこれから生きていく上で絶対基本だと思うんですよ。そうだったら、もうとにかく筑波大学にいるうちに自分のコミュニケーション能力を何としても発展させよう。発展させる方法というのはいろいろあると思うんですよ。

だから、例えば日本語で発展させるために外国語のクラスを取るというのも一つのやり方だと思うんです。分

からないことをどうやって人に伝えるか。そうすると頭を使うじゃないですか。そうすると日本語で話すときもこうやって話すと相手によく伝わるなとか、そういうようなことがどんどんどんどん分かってくる。だから、アメリカだって恥ずかしい学生はいて、発言しない学生はいると思うんだけども、アメリカというのは発言しないと生きていけないんですよ。

僕なんかもアメリカに来て、例えばアメリカで誰かの家にごちそうになりに行くじゃないですか。日本だったら、何か出されたときに、最初に何て言うかという「もう結構です」とか「私、おなかがいっぱいです」とか言う。そうすると、日本では「いや、そんなこと言わずに、どうぞどうぞ」と言ってくれるじゃないですか。アメリカでは「もうおなかがいっぱいですから、結構です」「あ、そうですか」と引き下がられちゃうんですね。そういうようなことがあると人間というのは変わるもんで「ああ、おなかがすいているですよ」というふうになる。

だから、人間なんて、簡単に変わるもの。人間の脳というのは、これは脳の研究があつて、脳のプラスティシティー (plasticity) という、これを調べていただきたいんです。これは、体育学部にいるんだったら、トレーニングでとても大切なことなんですよ。いわゆるピーク。トレーニングをやっていたら、ピークトレーニングとかがあるじゃないですか。あるいはフローの状態になると最高に力が出てくるとかあつて、体育学部でも脳の研究とか脳のことを知るというのはとても大切なことだと思います。

これは普通の人間でも、何をやってもピークに達するというのはとても大切なことで、いわゆるフローの状態になると最高の力を出せるわけですよ。そうすると、コミュニケーションをしているときも、そういうピークになるためにはどうしたらいいか。やっぱり脳を変えないといけないと思うんですけども、脳のプラスティシティー。プラスティシティーというのは何かというと、プラスチックという言葉から来ているんですよ。プラスチックというのは型にはめるとどんな形にでもなるでしょう？ それと同じようで、われわれの脳も簡単に変わる。そういう研究があつて、私のように60歳を超えていても、年を取っていても脳の形は変わるという。塑性性というんですけども、日本語では。そういうことがある。

あなたのように若い人の脳だったら、私よりもどんどん、もつと変わる。だから、変わるという強い意思が

大切なんだ。そういう強い意思を持てば、脳なんて簡単  
に変わる。そういう思いを持って、自分はコミュニケーション能力をもっと上げようと努力をすれば、絶対変わる  
と思う。

**宮崎** 分かりました。

**當作** 一回、脳のプラスティシティーというのを調べて  
いただくと、体育学部のあなたにも、いわゆるピーク  
トレーニングとか、フローの状態とか、そういうのをつ  
くるためには脳はどうしたらいいとか、そういうのがい  
ろいろ分かると思います。

何か運動はしているんですか、科目。

**宮崎** 陸上競技をやっています。

**當作** 陸上競技をやっていたら、短距離ですか、長距離  
ですか。

**宮崎** 投てき競技をやっています。

**當作** 投てき。じゃあ、投てきをやっているときに、投  
げるときにピークにならないといけないじゃないですか。

**宮崎** はい。

**當作** そういうようなトレーニングをどうやったらいい  
かということで、脳の仕組みを知っているというのはと  
ても大切なことですから、それを勉強して、コミュニ  
ケーション能力を上げるのにも利用してみてください。

**宮崎** 分かりました。ありがとうございます。

**當作** どうも。

**白山** はい、どうも。當作先生、かなり時間が来ていま  
すけど、先生、お疲れじゃないですか。

**當作** いえ、大丈夫です。僕はあと 50 分ぐらいで起き  
る時間ですから。

**白山** うわ……、申し訳ありません。

**當作** 今日はたくさん昼寝をしました。

**白山** 大丈夫ですか。

**當作** 大丈夫です。

**白山** では、学生さん、まだいらっしゃいましたら、ど  
うですか。

**水流遥希（筑波大学医学類 1 年）** 質問をいいですか。

**白山** はい。

**當作** はい、どうぞ。

**水流** 医学類所属の水流遥希です。本日はありがとうござ  
いました。

先ほど質問の答えで、現代では知識は質よりも量が求  
められてきているとおっしゃっていたんですけど、講演  
の中では一つの物事を多面的な角度で考えるという  
360 度思考が今、必要だとおっしゃっていて。でも、  
この二つは両立するのは結構難しいと思うんですけど、

それはどう考えたら……。

**當作** いわゆる 360 度思考というのは、behavior とし  
て何かをいろんな面から見る。でも、そのいろんな面  
の全部を知れというわけじゃないんですね。360 度思考  
というのは、何かがあったら、それをいろんな、一面から  
見るんじゃないで、多面から見てみる。

これはよくある話ですけど、ゾウがいて、そこに目の  
不自由な人が来て、みんな触って「ゾウというのはどん  
なものだった？」と言ったら「何か鼻が長かった」とか、  
ある人は「何か知らないけど、何か太い足があった」と  
か何とか言う。それは多面的な見方じゃないと思うん  
です。だから、それは構造として見ることであって、  
360 度全部、深く知れという意味じゃないんですね。

それから、今、知識の量と質ということを言いました  
けど、知識だけじゃなくて、行動とか何とかでも、ある  
いは何かをつくる場合でも、質よりも量の時代という  
ふうにいわれています。これも最近、そういうふうなこ  
とを書いたブログの記事がたくさん出ていますから「質  
よりも量」とかで Google サーチをしていただくと、なぜ  
今の時代、質よりも量が大切か、あるいは打率が高いこ  
とよりも打数が多いことがなぜ大切な時代になったか  
というのをうまく説明しているサイトがありますから、  
ぜひ参考にしてみてください。

**水流** はい、ありがとうございます。

**白山** 他にいますか、学生の皆さん。どうですか。

**森本悠介（筑波大学応用理工学類 1 年生）** 質問をして  
いいですか。

**白山** はい、どうぞ。

**當作** はい、どうぞ。

**森本** 応用理工学類の森本悠介と申します。本日はご講  
義ありがとうございました。

過去、自分が聞いた話から始まるんですけど、過去、  
先生と似たような考え方の、いろんなところに行ってこ  
いという人がいらっしゃいまして、その人がマイホーム  
を持つな、車を持つなと言っていたんですね。それはな  
ぜかと言われたときに、リスクを冒す面でリスクを減ら  
したり、柔軟性を高めるために、そういう高いものを持  
たないほうがいいということ言われていたんですけど、  
先生はそれについてどう思いますか。

**當作** 今、僕が言ったリスクとあなたがおっしゃった、  
聞いた話のリスクというのは違うと思うんですね。例え  
ば車を持つリスクというのは交通事故を起こすとか、そ  
ういうリスクだと思うんですけど、私が言ったリス  
クというのは何か自分にとっていいことになりそうな

チャンスがあったときに、それをするかどうかを考えたときに、例えば易しい道と難しい道があったら、私は難しい道を選んだほうが良いと思う。そちらのほうが恐らくリスクは高いと思うんですけども、成功した場合の見返りが大きいと思うんですね。楽な道を選ぶと成功する確率は大きいけれど、見返りというのは小さい。

今の時代、失敗しても立ち直ることが簡単にできる時代なんですよ。20世紀は努力すれば成功する時代で、成功する人がたくさんいたんですよ。そういうところで、小さい成功をしたところでしょうがない。今の時代というのは、先ほども言いましたけど、起業家が起業して、92%失敗して、成功するのは8%の時代だけど、8%しか成功しないから、その成功の意味というのは、100%成功するような場合と違って、大きいと思うんですね。だから、強い忍耐力と失敗に負けない、そういう力があるんだとしたら、僕はリスクを取ったほうが良いという意味でのリスクで。

例えばマイホームを持たないとか、それから車を持たないというのは、それはそれ、その人なりに理由があって、それがその人にとっていいんだとしたら、僕はそれでいいと思います。

僕の教えた学生の中で、僕の教えている学校は半分、ビジネススクールなんですけども、大体、うちの大学院を卒業した学生は、もう初任給がわれわれの今もらっている給料の5倍とか6倍、7倍、10倍取れるような、そういう職業に就いて、ファイナンスの関係の仕事をするとう年にボーナスだけで10億、20億は簡単にもらえるという、そういう仕事に就くわけですよ。

そうすると、僕の教えた学生の一人がアメリカ人で、日本語を勉強していたんですけど、やっぱり大きいファイナンスの会社に勤めて、30歳でもうボーナスが1年に200億ドルぐらいもらっているんですよ。自分がつくったファンドが大成功で売れて売れて、200億ドル、ボーナスをもらったということは、売れ行きはその何十倍だと思うんですね。

それで、彼は三十何歳で会社を辞めて、何をしたかという、ヨットを買って、ヨットで今、世界中をずっと何周も何周も回っているんですよ。もうボーナスが200億円あるから、もう死ぬまでお金に困らないんですよ。ファイナンスの仕事をやっていたから、自分で投資の能力があるから、200億円を持っていても、その200億円が減らないんだそうです。だから、人生、いろんな生き方があって、そういう生き方もある。

例えばYouTuberで、5歳か何歳か、それぐらいの子

どもが今、20億円ぐらいもうけているんだそうです。僕は考えるんですけど、なぜ今、こんなことをやっているんだろう。5歳の子どもが20億円もうけているんだとしたら、僕もYouTuberか何かになれば良かったなと思うんですけども、それぞれみんな、自分の特技とかがあるし、自分の考えというものもあるので、それぞれだと思うので、果たして車を持つ、持たない、家を持つ、持たないが自分にとっていいことか、悪いことかというのはやっぱり考えたほうが良いと思うんですね。

先ほど言ったように、これはノマドというんですけど、さっき僕が言ったように、仕事はあるんだけど、インターネットを通して仕事をして、世界各地を回って歩いているんです。ビザが切れると次の場所に行って、次の場所でホテルに泊まりながら、あるいは短期でアパートを借りて、スターバックスに行って、インターネットにつなげて、スターバックスで仕事をサンフランシスコとやったりしているという、そういう人がいるんですよ。そういう人は家を持たない。家を持っていると損。そういう人は家を持たないほうが良いと思うんですよ。それぞれ自分の状況を考えて、それを判断できる。それはまさに360度思考だと思うんですね。

だから、人によっていろいろあると思うんですけど、僕が言ったリスクというのは何か自分にとってベネフィットがあるけれども、必ずしも成功するとは限らない。そういうときに、僕は今の時代だったら、リスクを冒したほうが良いと思う。失敗しても、みんな、皆さんの失敗をすぐ忘れちゃう。立ち直ることが簡単にできる。そういう時代だと思う。

さっき質よりも量だと言いましたが、いわゆる打率が高いのよりも打数が多い。これはアメリカのホームランバッターです。アメリカのホームランバッターというのは、大谷とは違って、ホームランも打つけれども、三振も多いんですよ。空振りの三振も多いんです。けれども、ホームランも打つから給料は高いんですよ。その代わりに、三振の数なんか、もうすごいんです。そういう人が生きる時代なんです。だから、打率よりも打数、質よりも量の時代だと今、いわれている。これもさっき言ったように「質よりも量の時代」とかでググっていただくと出てくるから、それでよく調べてみてください。

**森本** ありがとうございます。

**白山** もうかなり時間も超過しておりますし、當作先生もお疲れだと思いますので、そろそろ終わりにしたいと思いますが、どうしてもご質問したいという方、もうこれを最後にしたいと思います。出なければ、もうこ

れで今日はお開きにしたいと思っておりますけれども、いかがですか。

**鈴木皓太（筑波大学大学院一般言語学領域 3年）** じゃあ、よろしいでしょうか。

**白山** はい。じゃあ、鈴木君、どうぞ。鈴木君で最後にしたいと思います。

**鈴木** 本日はありがとうございました。お時間がないということなので、ちょっといろいろあったんですが、一つだけに質問を絞ってするんですが、それがあんまりまとまっていないので。

ただ、これから大学の価値、見方が変わるというお話でしたが、じゃあ、やはりこれからの研究の意義ですよね。特に人文系の研究の意義。世間のもうそもそも大学の価値、見方が変わる中で、じゃ、これから研究をする意義というのはどういうところにあるかという話をお聞きしたいです。

何でこういうことを思い立ったかと思うと、大学はこれからの、當作先生がおっしゃったことは Serendipity が起こる場所というのが大学のある意味、価値であるということをおっしゃったと思うんですが、やはりそれがなぜ大学で起きるかといえば、知識の集積と、あと資財とか金があるからだとは私と考えました。ただ、これから大学に所属することだけに大きな意味がないということになってしまえば、その集積されている知識にアクセスできなくなるということですね。

まず大学の所蔵する知識というのは研究者であり、さらに言えば、図書館などにある資料ですね。これにさまざまな大学というのは制限を掛けて、アクセス……。所属の学生や提携先以外にアクセスできないということが多いわけですね。そんな中で、やはり特に人文系の研究というのは知識の蓄積に基づいてやっていかなきゃいけないわけです。

昔、エンジニアの方と話していたのは、理系とかプログラミングの技術というのは、学んだら、すぐ高いレベルで入ることができる。けど、そこからはあまり伸びない。新しくがんと伸びてくる人がいたら、簡単に抜かされるんだ。

対して文系とかの研究というのは知識の蓄積。この量というのはやはり年数に比例しているわけで、私たち学生が當作先生や白山先生のような知識の蓄積をすぐ得ることは無理だ。だから、それがまず違いであるというのを言われて、そのときはそのとおりだと思いました。

まとまってなくて、すみません。

**白山** 大丈夫ですよ。

**當作** 今、大学の先生……。僕はちょっといわゆる科学系は違うと思うんですけど、人文社会系の先生たちの頭の中にある、知識の蓄積というのは、ほとんどがインターネット上で手に入ると思います。

だから、例えばうちの大学なんかは Google ブックスにわれわれは自由に参加できる。無料で参加できる。どうしてかという、Google ブックスにうちの大学のキャンパスは 10 ありますけど、そこにある図書館の資料を全部、デジタルでスキャンさせて、Google ブックスに上げさせてあげたんです。だから、われわれの大学の教員というのは、Google ブックスはもう自由に使えるんですね。

大学の役割というのは三つありまして、1 番目は研究する場所、それから 2 番目は教育する場所、それから 3 番目は社会と結び付いて社会貢献をする場所。その社会貢献というのは 1 番目の研究、それから 2 番目の教育と結び付いているわけですけども、僕はこれから大学の役割というのは社会貢献というのが非常に重要になっていて、2 番目の教育の場所というのはオンライン上でいろいろな知識がもう簡単に手に入るので、それほどない。

むしろ僕は先生が教えるという考え方が間違いだと思う。学習というのは学生の頭の中で起きることであって、先生の頭から学生の頭に知識が移ることじゃないんですよ。だから、先生の役割というのは学生に考えさせること。考えさせるためには何が必要かということ、先生の一番大切な仕事はいい質問をするということなんです。いい質問というのは何かということ、イエスノーレスチョンじゃないんですよ。イエスノーレスチョンだったら、簡単に答えが出てくるじゃないですか。そうじゃなくて、考えさせる禅問答のような質問が一番いい質問なんですよ。そうすると学生は考えるでしょう？

これから自分で考える力がなかったら生きていけないですよ。知識がなくても、考える力があって社会に出る。知識が必要だったら、オンラインで調べれば入ってくる。それを使って考えて、自分の考えを生み出すという、それをやるような学生をつくらないといけないと思います。

研究活動は、われわれ大学の教師というのは絶対忘れちゃいけない。やらないといけない。たとえ人文科学でも、それから社会科学でも、自分のやっていることが重箱の隅をつつくようなことで社会に役に立っていないようなことでも、研究をしている意義というのは、僕は絶対あると思う。

例えば日本の大学に哲学部はほとんどないじゃないですか。

鈴木 はい。

當作 東京大学は哲学部みたいな、哲学科とかありますけど、京都大学もあると思うんですけど、日本の大学はほとんど哲学部がないですけれども、アメリカの有名な大学のほとんどは哲学部があるんですよ。哲学部ぐらい、一般の人は役に立たない学問はないというふうに考えるじゃないですか。

鈴木 はい。

當作 大体、うちの大学で哲学部の博士課程の学生が博士を取る平均が8年ですよ。8年かけて、哲学で、例えば人間は何のために生きているんだろうと。8年かけて、何の役に立っている……。

でも、アメリカの大学は予算カットでどこかの学部をカットしないとイケないというときに、哲学部をカットしようという大学は絶対ないんですよ。どうしてかという、哲学部というか、哲学はどの学問にも基本なんですよ。研究の基本が哲学なんです。だから、研究をする大学だったら、もう本当に哲学部というのは必要なんです。哲学というのは一見、役に立たないようだけれども、学問の基礎なんです。

だから、人文とか社会科学で研究していて、今は役に立たないけれど、いつか役に立つことがあるかもしれない。それを考えなかったら、やっけて、もう本当に自分は何のために生きているんだろうと思うかもしれないけど、やっけていることはいつか役に立つ可能性がある。

だから、例えば今、文科省がサイエンス系にばかりお金を出して、人文系とか社会学系にあんまりお金を出不いじゃないですか。あれぐらい国を減ぼすことはないですよ。

例えば最近、STEM Education ということで、Science、Technology、Engineering、Mathematics にアメリカでもすごいお金をかけるんだけど、それに加えて、最近はSTEAM Education というのが盛んに行われている。スティームというのはSTEにAが入るの。で、Mなの。このAというのは何かというとArtなの。つまり科学だけじゃいけない。レオナルド・ダ・ヴィンチとかミケランジェロのように、科学も強いけど、芸術的センスを持ったルネサンス的な人間、そういう人間がこれから強くなるんです。それを科学だけ強くしてはいけないんですよ。

だから、科学もやっけているけど……。さっきのパスカルのように、数学もできるけど、哲学もできるとか、そういうような人間というのが……。つまりさっき言ったMultipotentialiteですよ。そういう人間というのがこれ

から本当に強い。それが国を支えていく時代なんですよ。そういう人間をつくるような教育というのを子どもの頃からやらなくちゃならない。さっき言ったように、好奇心というのを持つかどうかというのは3歳までで決まると言っていましたけど、やっぱり国がもっとそれを考えて、幼児教育からしっかりと国の将来を考えて教育の設計を立てるといふことをしなければ、日本なんて滅んじやいますよ。

もう日本というのは下降線ですよ、今。どこかで止めて変えなければ、日本なんて2050年、もうどうなっているか分からない。もう皆さん、危機感を持ってほしい。それぐらい日本というのはもう下降線をたどっていて、これから他の国にどんどん負けていくと思います。それを今、断ち切らないと、この流れを断ち切らないとイケない。

そのためにできることの一つは、僕は教育を変えということですよ。皆さんの次の世代の子ども、今、小学生でいる子どもを何とかして。皆さんでは何とかならないけど、次の世代……。あなたも若いから何とかしてほしいですけど、われわれとか白山先生の世代にあまり期待しないで、次の世代、次の世代、ジェネレーションZ、ジェネレーションαに何とかする。そのためにやっぱり教育を変えないとイケない。だから、例えば科学にばかりお金を出していたら、文学とかそういうものも大切だとか、やっぱり言えるようにならないとイケない。科学ばかりにお金を使っていたら、国を減ぼす。

例えば最近、富士通のスーパーコンピューターが世界一になりましたけど、あの1番になること自体に非常に意義があつて、あれをやるための基礎研究とか、そういうものをやっけていること自体にすごい意義があるんですよ。1位になることも意義があるけど、その陰にいろんなものがあつて、みんな、表面ばかり見て、裏を見ていないんです。

大学もこれから小さい大学がどんどん駄目になって、筑波大学のようにお金のある大学は生き延びていくと思うんですけど、なぜ小さい大学は生き延びないかという、さっき言ったように、社会活動をする場なんだけれど、これからオンライン授業になると小さい大学というのはそういう社会活動の場所がないから、学生が行かなくなる。そういうことが起こってくるんです。

だから、筑波大学もそういうような中で、学生をオンラインでもどうやっけてとどめるかとか、どういうふうにして社会活動を起こすとか、そういうことを考える必要が絶対あると思いますし、そういうことを考えるために

---

は僕は科学だけじゃいけない。テクノロジーだけを知っていちゃいけなくて、文学とか社会学で人間はどうやってつながるかとか、人間はどういう心理を持っているかとか、そういう研究をしていなかったら、オンラインの授業をやったって、オンラインでコミュニケーションをやっていたって、絶対つながらないですよ。テクノロジーだけ発達しても、人間の心が分かっていなかったら、絶対、この世というのは滅んじゃうんですよ。そういう意味で、人文系も社会学系も絶対重要な学問なんです。

だから、そういうことを言っていかないといけない。

ぜひそういうことを発信して行ってください。よろしくをお願いします。

**白山** はい、どうもありがとうございました。さすがに2時間15分を過ぎておりますので、もう當作先生、本当に最後の最後まで、学生たちのためにお付き合いいただいて、本当にありがとうございます。質問会もこれで一応、終わりということにさせていただきます。當作先生、本日はお忙しい中、長時間にわたり本当にありがとうございました。

**當作** ありがとうございました。

本公演は、NipCA プロジェクト主催 2020 年度 筑波大学 オンラインによる 第一回 新入生に贈る特別講演会として 2020 年 7 月 20 日（月）に開催された。

イメージ、写真等で著作権があるものの著作権はそれぞれの著作権所有者に帰属します。

# グローバル時代の国境を越えて働く人材の育成 ～ポストコロナをたくましく生きていくために～



**日時** 令和2年7月20日（月）15:15～16:15

**講師** カリフォルニア大学 サンディエゴ校  
當作 靖彦 教授（アメリカ在住）

## 筑波大学 オンラインによる 第一回 新入生に贈る特別講演会

**対象** 本学学生（優先）、本学教職員、一般（人数制限あり）

**会場** Zoom Meeting

### 参加方法

本講演会は Zoom を使用します。下記申込フォームにて参加登録をしていただくと、どなたでも無料でご参加いただけます。ご登録後、講演会入室のための URL をお送りいたします。Zoom 利用が初めての方：招待メールが届きましたら、URL をクリックしてアプリのダウンロードとインストールをしてください。Zoom が繋がらないなどの相談は受けられませんので、事前に十分チェックしておいてください。

<申込フォーム>参加登録〆切：7/20（月）14:00

<https://forms.gle/i1NAm1j2X11Utw5D9>

※当日ライブ視聴できない本学学生・教職員の皆様のために、manabaにて無料の動画配信を予定しております。詳細は、講演会后、下記 NipCA プロジェクト Websiteにてお知らせいたします。

主催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」

共催：筑波大学 グローバル・commons機構、グローバルコミュニケーション教育センター、スーパーグローバル大学事業推進室

協力：筑波大学 学生部、国際室

問合せ：NipCA プロジェクト担当事務室 Website: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>  
TEL: 029-853-4251 / Email: [info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp](mailto:info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp)

筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」主催  
2020年度  
**筑波大学 オンラインによる 第一回 新入生に贈る特別講演会**  
グローバル時代の国境を越えて働く人材の育成  
～ポストコロナをたくましく生きていくために～  
カリフォルニア大学 サンディエゴ校教授 當作 靖彦

---

2021年3月15日初版発行

監 修 臼山 利信  
編集・校正 梶山 祐治 (主担当)、山本 祐規子、谷越 祥子、笹山 啓  
発 行 者 臼山 利信  
発 行 所 筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト  
(NipCA)」  
茨城県つくば市天王台 1-1-1  
Tel: 029-853-4251  
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp  
Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>  
印刷・製本 株式会社アイネクスト

---



---

**筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト  
(NipCA)」**

〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学

Tel. 029-853-4251

E-mail: [info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp](mailto:info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp)

Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>

---

ISBN 978-4-910114-13-2